

9/24 福井

安保法 私の視点



あまみや・かりん 75年北海道生まれ。反貧困ネットワーク世話人。著書に「生きざせろー 難民化する若者たち」「ドキュメント 雨宮処凛の革命」「14歳からの戦争のリアル」など。

「選挙で自民・公明が過半数とつたから、憲法違反して勝手に法律を作る。独裁国家ですか。それは民主主義ではありません。ただの多数決主義です」「安倍さん(安倍晋三首相)、強行採決しても国民はすくお忘れろと思ってるんですけど、私たちを舐めないでください。(中略)いろんな人が、あらゆる手段で『おかしい』と伝え続けま

す」
9月17日、参院の特別委員会で安全保障関連法案が強行採決された日、国会前で大学生の女の子がぞうすピーチした。この日、雨にもかかわらず国会周辺には3万人が集結。その前日に

作家 雨宮 処凛

全国各地で抗議デモ

未来問う若者止まらず

は、午前5時過ぎまで若者たちが国会正門前で「安倍はやめろ」「と声を上げた。安保法案を受けて立ち上がった。自由と民主主義のための学生緊急行動)の奥田愛基氏は「日本全国2千力所以上、数千回を超え、抗議が行われています。累代による「MIDDLEs」、また海外在住日本人らによる「OVERSEAs」や「誰の子どもも殺させない」を合言葉にした「ママの会」も結成。また、関西や東北、沖縄でも地元学生たちによりSEALDsが

た若者たち。その運動は全国に計して130万人以上の人が路傍の火のように広がり、8月30日には12万人が国会周辺を埋め尽くした。9月15日、中央公聴会に出席したSEALDs(シールズ、そんな若者たちに背を押されるようにして、この夏、高齢者による「OLDS」やミドル世代による「OLDS」やミドル世

時に東日本大震災に遭い、日本つてもしかして、何が正しくて何が間違ってるか無関心でいた気がつかないのになって思いました」「私は安倍総理に言いたい。18歳選挙権は、あなたを政権の座から引きずりおろす存在に必ずなると思います」。デモで制服姿の高校生の女の子がそう言い、「コールする。裸の王様誰だ?」「安倍だ!」

結成され、7月には高校生を中心とした「Tins SOWL」も立ち上がった。「小学4年生の時にイラク戦争を知り、日本がかかわった事を知りました。小学6年生の

と右肩下がりの時代を生きてもいる。SEALDsの中には、数百万円の大学の奨学金を背負っている学生も多い。就職難。広がる不安定雇用。格差や貧困。停滞の時代しか知らない彼らは、弱者を切り捨て、命を軽んじるような政策を続けてきた政権が「平和安全法制」などという言葉を持ち出してきた時、皮膚感覚で気づいたのだ。「んなことあるか」と。彼らが反対しているのは安保法案だけではない。いや、既に反対運動の域も超え、「この国のあり方」や未来、民主主義を問いつけている。

しかし、民主主義も憲法も踏みにじり、安保法制は成立した。だからこそ、この動きは止まらないだろう。若者たちだけでなく、この国に生きる全員は既に、声を上げなきゃ生きていけない時代にいるのだ。